

(6) 給排水・給湯設備、排水処理設備	ア 給湯器の高効率化	を導入すること。	
		(ア) ガス式給湯器については、更新時、新設時等の機会を捉えて、潜熱回収型ガス給湯器など順次高効率な機器の導入を実施すること。	
		(イ) 電気式給湯器は、更新時、新設時等の機会を捉えて、ヒートポンプ式給湯器など順次高効率な機器の導入を実施すること。	
		(ウ) ボイラの更新時及び新設時には、順次高効率な機器を採用すること。その際、更新前の機器の容量と実際の使用で発揮している能力の比較・検討をし、適正な容量を選定すること。	
		(ア) 冷温水配管、継ぎ手、バルブ等の配管系の断熱性能が不十分と認められる場合には、断熱強化を図ること。その際、日本産業規格 A9501（保温保冷工事施工標準）及びこれに準じる規格に規定するところにより行うこと。	
(7) 事務用機器	ア 事務用機器の高効率化	ウ 使用給水量の低減	(ア) 水栓への節水こまの取り付けや、自動水栓の導入、トイレでの撥音装置の導入等により、使用水量の削減を図ること。
			(ア) パソコン、プリンター、コピー機や複合機の更新時及び新設時には、より省エネルギー性能の高い機器の導入を実施すること。
(8) 昇降機設備	ア 昇降設備の高効率化		(ア) エレベーターについては、更新、新設等の機会を捉えて、順次、インバータ制御や再生電力機能を有する設備を導入すること。
			(ア) 需要電力監視制御装置（デマンドコントロール）を導入し、ピーク電力を抑制して契約電力の低減を図ること。
(9) 受変電設備、配電設備	ア 需要電力の監視		(ア) 変圧器については、更新、新設等の機会を捉えて、順次高効率化するとともに、集約化を図ること。
	イ 受変電設備の高効率化		(イ) 無停電電源装置については、更新、新設等の機会を捉えて、必要な容量を見直し、順次高効率な装置の導入を実施すること。
	ウ 力率の改善		(ア) 更新、新設等の機会を捉えて、進相コン

(10) 中央監視設備	ア エネルギー管理システムの導入	デセンサの導入等により、力率の改善を図ること。	
		(ア) 中央監視設備については、更新、新設等の機会を捉えて、ビルエネルギー管理システム（BEMS）を導入し、設備稼働状況等のデータを把握及び制御すること、エネルギーの使用の合理化を図ること。	
		(ア) 建物等の設置条件及び日射を考慮し、エネルギー需要の状況に応じて太陽光発電設備の導入を検討すること。	
		(イ) 建物等の設置条件及び日射を考慮し、エネルギー需要の状況に応じて太陽光利用設備の導入を検討すること。	
		(ウ) 建物等の設置条件及びエネルギー需要の状況に応じて地中熱利用設備の導入を検討すること。	
(11) 再生可能エネルギー	ア 再生可能エネルギーの導入	(エ) 熱源設備の更新、新設等の機会を捉えて、エネルギー需要の状況に応じて生物資源（バイオマス）利用設備の導入を検討すること。	
		(ア) 屋根、床、外壁等構造体の断熱性能の向上及びブラインド、カーテン、遮光フィルム、多層ガラス等を導入し、日光の入射を防止すること。	
(12) 建物の省エネルギー	ア 建物の断熱性能の向上	イ 蓄熱・蓄電設備の導入	(イ) 一日の負荷変動及び季節変動を平準化するために、蓄電池又は蓄熱設備の導入を検討すること。導入した際は、建屋のエネルギー利用状況を考慮し、蓄電・蓄熱時間及び放電・放熱時間を設定すること。
			(ア) 構造上、窓や扉がなく外気に開放された開口部がある場合には、事業所の改修、新設の機会を捉えて、空調負荷を増大させる外気の進入及び室内空気の流出を防止するための措置（扉の設置等）を実施すること。
イ (1) から (12) まで以外からの設備		(ア) 更新時及び新設時には、順次高効率な機器を採用すること。その際、更新前の機器の容量と実際の使用で発揮している能力との比較・検討をし、適正な容量を選定すること。	

		(イ) 自動販売機は年間消費電力量が小さい省エネ型を設置すること。外部業者が設置している場合には、省エネ型に交換するよう要請する事。
2 産業部門		
対象となる設備	対策分類	対策内容
(1) 照明設備	ア 屋内ランプの高効率化	(ア) 既設のランプより高効率なランプの採用が可能な場合は、ランプ交換の機会を捉えて順次高効率のランプを導入すること。
	イ 屋内照明器具の高効率化	(ア) 照明器具の更新、新設等の機会を捉え、既設照明の点灯回路、ランプ方式、照度等を勘案し、順次高効率のLED（発光ダイオード）照明器具を導入すること。
	ウ 屋内照明の点灯回路の細分化	(ア) 照明スイッチと点灯範囲との対応を確認し、不要な範囲の照明が点灯する場合には、必要な範囲の点灯となるよう点灯回路の細分化を行うこと。
		(イ) 消し忘れしやすい場所には、稼働時間、照明方式等を踏まえ、人感センサーなどを導入すること。
	エ 屋外ランプの高効率化	(ア) 既設のランプより高効率なランプの採用が可能な場合は、ランプ交換の機会を捉えて順次高効率のランプの導入を実施すること。
	オ 屋外照明器具の高効率化	(ア) 既設の照明器具が磁気回路式安定器を使用している場合には、稼働時間、照明方式等を踏まえ、LED（発光ダイオード）照明器具へ更新すること。
		(イ) 照明器具の更新・新設等の機会を捉えて、既設照明の点灯回路、ランプ方式、照度等を勘案し、順次高効率の照明器具(LED（発光ダイオード）照明器具、メタルハライドなど)を導入すること。その際、既設照明による照度を勘案し、過剰な照明にならないよう配慮すること。
		(ア) 冷温水配管、継ぎ手、バルブ等の配管系
(2) 空調・換気設備	ア 冷温水配管の保温	

備（中央熱源方式）	イ 搬送動力の負荷に応じた制御の導入	(ア) 搬送動力(ポンプ及びファン)については、更新、新設等の機会を捉えて、順次高効率モータの導入を実施すること。
(3) 空調・換気設備（個別方式）	ウ 冷温熱源機の高効率化	(ア) 空調の冷温熱源機器については、更新、新設等の機会を捉えて、順次高効率な熱源機器の導入を実施すること。その際、更新前の機器の容量と実際の使用で発揮している能力との比較・検討をし、適正な容量を選定すること。
	ア 空調機の効率化	(ア) 更新、新設等の機会を捉えて、順次高効率な機器の導入を実施すること。
	ア 空調範囲の最適化	(ア) 作業場の空調設備については、作業場の使用状況に応じて、更新、新設等の機会を捉えて、局所空調の導入を実施すること。
	イ 換気系統の最適化	(ア) 作業場の換気設備については、作業場の使用状況に応じて、更新、新設等の機会を捉えて、局所排気の導入を実施すること。
	ウ モータの高効率化等	(ア) 更新、新設等の機会を捉えて、稼働時間、駆動方式等を踏まえ、順次高効率モータの導入を実施すること。
(4) 空調・換気設備（その他）	エ 負荷に応じた制御の導入	(ア) 負荷変動が大きい設備には、使用状況、更新時期等について検討し、インバータによる可変速制御などの導入をし、負荷変動に応じた設備の運転を実施すること。
	ア モータの高効率化等	(ア) 更新、新設等の機会を捉えて、稼働時間、駆動方式等を踏まえ、順次高効率モータの導入を実施すること。
	イ 負荷に応じた制御の	(ア) 負荷変動が大きい設備には、使用状況、
(5) 生産設備		